

ルート3:『曾根崎心中』ゆかりの場所をめぐるコース(徒歩約 40 分)

曾根崎心中 (そねざきしんじゅう)

作者：近松門左衛門

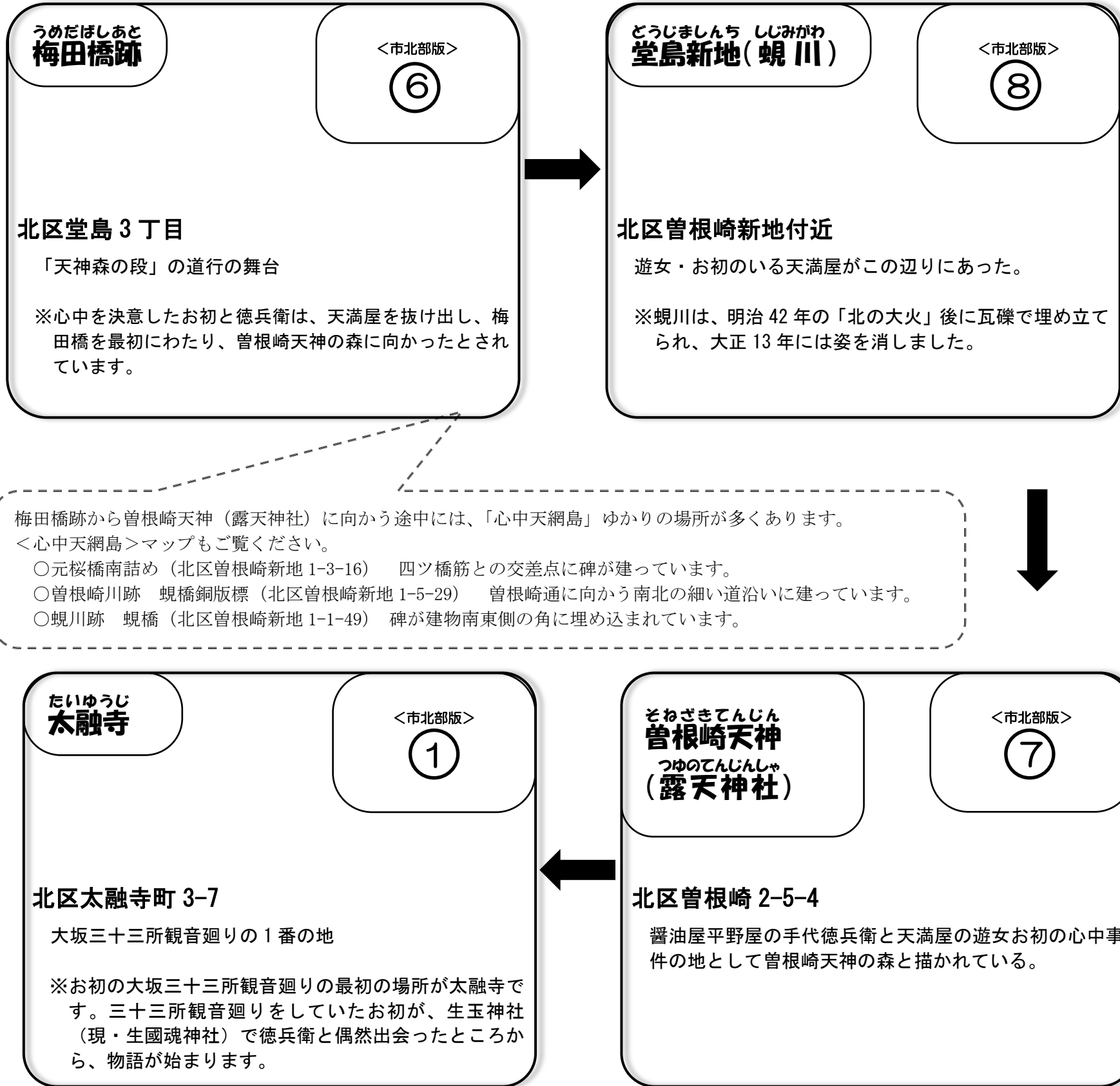
(ちかまつもんざえもん)

大坂三十三所の観音廻り(かんのめぐり)をしていたお初は、徳兵衛と生玉神社(いくたまじんじゃ)で偶然出会う。徳兵衛は、平野屋の主人から縁談を勧められたものの、お初のこともあり断ったこと、既に結婚の支度金二貫目(約三百二十万円)を受け取っていた故郷の継母から、金を取り返してきたこととお初に語る。しかし、友人の九平次(くへいじ)に頼まれて貸したその金が、まだ返されていない。

ちょうどその場に通りかかった九平次は、借金などしていない、証文も偽物と徳兵衛を罵る。九平次は、最初から徳兵衛を騙すつもりだった。喧嘩となって人々の前で打ち叩かれ、徳兵衛は面目を失う。(生玉社前の段)

その夜、徳兵衛が天満屋を訪ねてくる。お初は着物の裾で徳兵衛を隠し、縁の下へ忍ばせた。そこへ九平次がやって来て、徳兵衛の悪口を言い散らす。お初はさりげなく、しかしはっきりと九平次の不正に抗議する。そして周囲には独り言と見せかけて、縁の下の徳兵衛に心中の覚悟をうながし、徳兵衛もその覚悟を伝える。皆が寝静まった後、二人は天満屋を抜け出す。(天満屋の段)

二人は曾根崎天神の森へと向かい、心中を果たした。(天神森の段)



<凡例>

文楽ゆかりの地名	<〇〇版> ①
所在地	文楽ゆかりの地マップ掲載箇所
文楽ゆかりの地	説明

大阪の観光名所や、他の文楽ゆかりの地の紹介などを記載